

大日本山林会

# 梅内聚落(市)に奨励賞

## 「宝の森林」活動を評価

能代市二ツ井町の梅内地区で森林の手入れと森づくりによる地域活性化に取り組んでいる梅内聚落(安井重雄区長)が、林業経営の現場で役立つ技術的な発明、改良、創意工夫を表彰する公益社団法人・大日本山林会(本部・東京都港区)の「林業経営『創意工夫』表彰」で、奨励賞を受賞した。杉林を手入れする過程で出た杉材を薪ストーブに利用するなど、森林資源を有効活用した活動が評価された。

林業経営の現場での森林造成から伐採、搬出、経営など広範囲にわたる分野で役立つ技術的な発明、改良、創意工夫を表彰している。10回目の元年度は全国で優秀賞を1団体・1個人、奨励賞を1団体・1個人が受賞した。本県関係の受賞は梅内聚落が初めて。

## 林業経営「創意工夫」表彰

大日本山林会は、林業の改良・進歩を目的に明治15年に設立された国内で最も古い歴史のある林業団体。

ほとんどの山林で占められる梅内地区は、約1900haに上る集落および個人所有林が広がる。伐期を迎えながらも作業量が少ない

ことなどから手入れが行き届かない状態にあったが、先人が残した遺産を守っていくこと、平成24年に森林の手入れと森づくりを行う「二ツ井宝の森林プロジェクト」が地区の有志によって始まった。

プロジェクトでは、間伐の過程で発生する間伐材、チップ材などを薪ストーブの燃料やバイオマス発電用として利用したり、木の駅プロジェクトに参加したりして環境に優しい地域づくりの確立を進めるとともに、山林に関わることで地域のにぎわいづくりにもつなげようと努めてきた。

また、林業体験に興味を持つ人を対象にした教室を開催。山づくりの基礎知識



やチェーンソーの操作方法を指導しながら、林業に興味

創意工夫した山林経営の取り組みが評価された梅内聚落の活動(写真は昨年9月の森林体験)

伐、C材のバイオマス発電用チップ化など活動の幅を広げている」と活動が評価された。

梅内聚落の安井区長は「聚落で実施している再生可能エネルギーづくりや、地域のにぎわいづくりなどの事業が評価されたと受け止めており、うれしい」と話すとともに「事業を開始してから8年が経過し、年々賛同してくれる人が多くなってきた。これからも先人が残してくれた山林資源を有効に生かして、地域の活性化につなげていきたい」と、今後も山林を生かした活動を続けていきたいとした。

今回の表彰では、「作業は楽しく共同で、収益は公平に」を合言葉に、収益は公平に